

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有権会社 Do
(ユニット名)	ういず ゆう
所在地 (県・市町村名)	岐阜県飛騨市神岡町東茂住242番地
記入者名 (管理者)	原田 奈賀子
記入日	平成 19年 8月 13日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	釜崎保育園との定期交流会（年数回）、茂住郵便局での定期作品展（年数回）、神岡公民館での定期作品展（年1回）、茂住町内会の花会参加、金龍寺への散歩の日課、茂住地域住民との演奏会を行い、絶えず地域とのつながりを意識した活動を行なっている。	○ 作品展、交流会等回を重ねていくごとにより充実した内容にしていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	神岡公民館での作品展は第3回を終え、多くの神岡地域の住民に知れ渡る事となった。その作品展の内容は訪れる人々を感動と喜びをもたらす、寄せ書きにつづられる言葉は、ご利用者の生きていく励みと、また見る者の励みとなり、生活していく上で社会的孤立を感じる事がないものと考えている。	○ 理念をより現実的にまた、実績を評価できるように活動を計画し、その事がおのずとご利用者と地域社会の交流に結びついているものと考え、表現できるようにしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	釜崎保育園との定期交流会（年数回）、神岡公民館での定期作品展、茂住地域住民を招いて神岡高校の演奏会、神岡中学校の職場体験等 各マスコミを通じてその活動を掲載し、ご利用者に地域住民の一員としての社会参加をしている喜びと生きがいを感じていただいている。	○ ご利用者の社会的参加、地域での活動は家族を始め地域の人々に施設の活動を公開する場と考える。中日新聞、北陸新聞、岐阜新聞等に様々な活動を掲載させる事で、ご利用者、ご家族、ご親族等に施設の理念を実践している様を表している。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の住民によって作られる、野菜、また山から取っていただいた山菜、季節の花等、季節の折々に届けていただける。また施設を地域住民に開放して、演奏会、交流会を行なっている。その折には、ご利用者が作ったクッキー等ささやかなプレゼントを感謝の気持ちとして配り、ただ受取るばかりでなくご利用者自らが積極的に参加していく姿勢を養っている。	○ 日課として金龍寺（町内の端から端まで歩く事ができる。片道20分）への散歩を行い、時には郵便局へ立ち寄り、作品展の状態を見たり、今後の打ち合わせを行ったり、情報交換を今後とも行なっていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	茂住町内の花見会等様々な行事、町内会に参加するとともに、積極的に施設に来ていただくことで地域との交流を図っている。また、山間部の施設として地域とのつながりは、地震、火災等防災上緊急の場面で非常に重要で、常日頃より住民との行き来することを心にかけている。	○ ご利用者が積極的に地域社会に出て活動することは、事業所の活動内容を公開する事につながり、グループホームが地域社会に受け入れられていく上で重要な手段と考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	○	<p>当施設が行なう作品展は、ただ作ったものを並べるだ けでなく、一つ一つの作品がヶ月もまた数ヶ月もか けてできたものである事を理解して見ていただくこと で、高齢者に対する能力の可能性を引き出し、その培 われた技術をよみがえらせる事ができることを、人々に 再認識をしていただくことが重要と考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>自己評価を行う事は、施設が取り組んでいる様々 な活動状況を再認識する場と考えている。その 評価を行う事で何が足りないのか、何ができてい るのかを検証して、今後施設が活動していく方向 性を見出す事ができる。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議で報告する事で、より充実した内容 の活動報告を定期的にする事ができ、新たな活動 の方向付けやプログラムを立ち上げる事ができ る。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	○	<p>当施設より活動の案内を市及び県に送るととも に、成果を作品展の形で発表し、飛騨市広報や民 間マスコミを通じて広く広域に公表して、サー ビスの向上と公開を図っている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>成年後見人制度に関わる問い合わせがあり、パン フレットおよび資料を提供する。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>施設内における高齢者虐待は、基本的には介護者 の技術不足と人格の不適切と考えられ、職員の チームワークによるお互いの技術アップを図っ ている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>今まで当施設より積極的に入所を勧めたことはなく、ご本人またはご家族の希望や地域の病院、介護支援専門員の紹介で入所された方ばかりで、入所に当たっては十分な時間と余裕をかけて話し合い、退所に当たっては利用者の希望に沿って行なってきた。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>日常的な喜び、老いていく悲しみ、進んでいく認知症とともに理解しあう会話が重要で、傾聴こそが高齢者介護の基本と考え、その姿勢の中では施設への不安は起こらないと考えて実践している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>ご利用者個別の写真集を作る事は、施設入所してからのご利用者の表情の変化や、状態の変化を読み取る事ができ、また施設での暮らしぶりを紹介したりご利用者には記憶の想起につなげたり、次回の楽しみに結びつける事ができ、ご利用者やご家族の評判は良い。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>ご利用者が自ら積極的に地域社会に出て行くことで、ご家族が持つ意見や不満はおのずと無くなっていくものとする。施設がその社会的責任を持ちそれを反映していく事が施設運営で大切な事と考え実践していく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>どんな場合でもすばらしいアイデア、提案は取り入れるべきであり、日常的に意見交換することが施設運営において重要である。当施設は、毎日午後より介護について、作品作り等様々な意見交換をしており、ご利用者個々の介護のあり方、方針等を検討している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>施設の性格上いつも臨時の体制ができるよう、日頃より職員全体に理解させている。緊急の場合や他の施設の訪問等、ご利用者全体で行なう行事の場合は、常に臨時職員を補助につけ安全の確保、介護の確保に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当施設ではご利用者と職員とが長期にわたって固定される状態はなく、むしろどの職員とも馴染めるよう日常的に配慮をしており、そこには職員のチームワークと共通の介護意識が必要となってくる。	○	施設の性格上職員とご利用者の馴染みは切り離す事のできない重要な事で、基本的に職員の移動は考えられない。しかし十分な移行時間と準備が整っていれば、利用者の状態の変化の過程で行えない事はない。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年地元の施設で行なわれる研修や、病院医師の定期往診時に行なわれる医療・薬剤の指導を直接受ける事ができる。また病院との連携ができていて、看護師より様々な症状に対する対応について、より現実的に施設側の要望で話を進める事ができる。	○	介護の実践、介護作成、衛生管理、感染症管理、褥瘡管理、薬剤管理とその経験、能力に応じて実践の中で学習をし、機会を見つけながら地域で行なわれる研修の参加を促している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会を通じ飛騨支部として活動をしている。各月ごとに定期会議を行い、意見・情報交換を行なっている。	○	当施設の活動報告や参加案内を行い、サービスに対する情報交換を行なっている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	コーヒー、お茶、おやつ等を楽しみながら、休憩タイムとしてご利用者と離れ職員同士の時間を作る事で、お互いの意見交換をしている。	○	休憩タイムは、ご利用者についてやプライベートな家族の事等様々な内容を自由に話すことができ、職員のストレスの軽減やチームワーク作りに役立っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	裁縫、手芸、料理、お菓子作り、音楽療法、バーベキュー、交流会等様々な活動の中で、職員の得意とする分野において、その能力を生かしている。また職員の能力を生かすことのできる介護実践を目指している。	○	どの職員にも得意とする部分があり、その能力を十分に発揮できるよう、介護計画を立てていく事が必要で、そのためには画一的な介護ではなく、様々な種類や形態を組み合わせた活動を行なっている。音楽療法と手芸、外での活動とお菓子作り等職員の幅広いアイデアが生かしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最低二回以上面会を行っており、当施設のパンフレットで施設の活動の様子と日常生活の暮らしぶりなどを紹介している。またご利用者同士知り合っているかかどうか、気の合わない人がいないかどうかの確認を行っている。	○ 入所するまでに十分な相談時間を設け、入所までに管理者及び運営者とどこまで会話ができて、信頼関係が構築できるのかが重要である。施設の顔となるものが誰なのかはっきりさせておく事が安心感を与えるのに大事と考え、必ず入所サポートとして管理者と運営者がそれに当たっている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者と同様ご家族との信頼関係は重要で、ご家族の施設に対する希望が当施設に合っているかどうか十分に確認していく事が重要で、今後の施設運営に大きな障害とならない様、入所までに確認していく必要がある。	○ 当施設の運営方針や活動内容をパンフレット等を資料として案内するとともに、様々な情報開示に関して理解と協力を求めている。また、介護支援専門員との相談する機会を確保、ご家族が安心して利用できる施設として行なっている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメントを行い、暫定的な介護計画を本人およびご家族に提出し、2.3週間後初期計画による介護計画書を提出している。介護計画時には計画受領書を求め、ご本人およびご家族よりその計画に対する意見、希望を反映させている。	○ 入所希望が早急なのかが大切で、急を要する場合は相談窓口となった介護支援専門員または関係医療機関等の意見を聞くとともにご家族の意向を慎重に見極めている。様々な角度から支援を見極めていく事が重要と思われる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共同生活において最初の1ヵ月から三ヶ月はまず、施設の雰囲気、日常生活、他のご利用者慣れていく事が肝要で、この事を初期の介護計画に盛り込み、介護時間に縛られていくのではなく、ご利用者本人のこれまでの生活状態に合わせていく中で、心地よく会話できる人と場所を見つけていくように配慮している。	○ 初期の段階においてご家族との面会は重要で、ご利用者の状態・状況を判断し、ご家族には速やかにその対応をお願いできるよう、理解と協力を求めている。特にご利用者本人の感情を十分に把握していただき、ご家族とご本人が安心して共同生活を送れるように対応して取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年間を通して大きな目標や行事をおこなっていて、その目標にご利用者と職員が一丸となって行なっている。ご利用者と職員またご利用者同士助け合い、励まし合い、完成した作品をともに喜び、このチームワーク活動こそが小規模共同生活の一番良い部分であると考え実践している。	○ ご利用者は人生の先輩として、尊敬と敬意をもって介護を行い、ともに作品作りを行ない、その発表会に向けて一年を通した目標の中で支え合い、いたわり、完成した喜びを味わい、励まし合い、そうした毎日が生きがいとして生きていく希望を利用者に感じていただけるよう介護の仕事に携わっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ばかりではなく、近い親戚にも施設での暮らしぶりの写真を送ったり、ご様子を知らせる手紙を送る事で共に支えあう関係を共有している。そうした中でご家族にも知らなかったご利用者の能力を見つけ出し、再認識させていく事でお互いの信頼関係を構築している。	○	ご家族とともに参加できる活動や介護を職員とともに行なえる場も受け、ご利用者とご家族が離れる事のないよう配慮している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	二週間にわたって行われる作品展は、施設にとって1年間の介護実践結果の発表の場であり、ご利用者との記録や思い出が写真や作品に表れ、ご家族にとってはご利用者の残存能力の質の高さや1年間の様子を間近で感じていたただける場となっている。	○	施設介護を公開していく事で、ご本人とご家族のオープンなつながりを持つ事ができ、またご利用者の社会的参加をとおして新たな家族関係を構築していく事ができる。これはご家族にとってご利用者に対する新たな認識と発見する機会を与える事ができ、更によりよい関係を築く事ができる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の社会進出は地域とのつながりを緊密にして、過去のつながりを継続する事ができ、地域密着型施設の重要な部分と認識している。利用者の手紙のやり取りの支援、友人への活動案内の送付、馴染みの公園の散策等季節折々の状況に合わせて行なっている。	○	年間を通じて行なっている活動内容は、公民館での作品展、郵便局作品展、釜崎保育園、中学校、神岡高校交流等、様々な形で地域社会と交流を持つ事で、ご利用者本人の世代や子供・孫の時代との接点を感じさせる事ができ、狭い地域性の特長を生かした活動を取り入れて支援を進めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとつの作品を作っていく過程で、どうしても1人ではできない部分や完成できない場合があり、ご利用者一人ひとりの能力に応じて他のご利用者が手伝う場面を持ったり、お互いに励ましあったり、喜び合う場面を持っている。	○	誰にでもできる作品作りから、手伝いながら共同してできる作品作りや、能力の向上を目指していく作品作りを一年の大きな活動目標としている。また日常生活でお互い助け合う場面を儲け、お互いの認知能力を自然と受け止める事ができるようまた、理解しあえるよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	作品展等、当施設で行なわれる催事を公表して、参加する事ができ、また寄せ書きコーナーを置くことで、近況の状態を知らしてくれる事ができる。	○	催事には案内葉書を送付し、また寄せ書きをいただいた方には必ず返書を送ることで、継続的に施設とのつながりを持ち、社会的関係を深める事で、地域密着型施設の役割を果たしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	作品作りやレクレーションの中で、日常的な雰囲気 を維持しながら、季節折々にご本人のしたいこと を聞き出したり、またできそうな事を促してみ たりすることで、介護計画が作られている。	○ 3ヵ月ごとに見直されている介護計画は、ご本人 の希望やできそうな可能性のある活動を選択させ て取り入れ、日常生活に喜びと満足感を感じてい ただけるように心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている	ご利用者ご家族始め、その親戚、友人からもこれ までの生活状態を詳細に聞く事で、現状の問題が 解決する事もあり、またその細かなところを職員 全員が共通の認識として把握し理解する事で、心 の不安や不安定要因を回避している。	○ 施設が社会の中に出て行くことは、ご利用者に対 する様々な情報を受ける事ができ、ご利用者とと もに過去にさかのぼって記憶を想起させる機会を 持つ事ができ、また 施設内、施設外においてさ まざまな活動をする事で、得意とする分野を見つ け出す事ができる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状 態、有する力等の現状を総合的に把握する ように努めている	毎日行なう様々な活動の幅を広げその中で選択さ せていくことで、本人の希望のみならず他の可能 性を見つけ出す事ができ、今までできなかった事 が再びできることがある。	○ 裁縫1つとっても、雑巾縫い、人形作り、刺し 子、パッチワーク、ぼろきれ作り、ボタン縫い等 様々な縫い方や仕上げの仕方があり、そこには 個々の能力と好き嫌いを見る事ができ、それらの アイテムをいろいろ応用していく事で可能性を見 つけ出している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	職員の得意とする分野において個々のご利用者 に対する日常生活の可能性を見つけ出し、介護計画 に反映している。	○ 3ヵ月ごとにご家族より介護計画を送付し、行な われた介護の結果を3ヵ月前と3ヵ月後で数値化 してどのように効果があったのかお知らせをして いる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している	3ヵ月以前に対応できない緊急的な変化が生じた ときは、ご本人とご家族が面会の上十分な説明を する事で、対応に応じている。	○ 認知症が進行している中で、ご家族がご本人の状 態を理解していく事は難しく、日頃から職員より ご本人の状況・状態を告知していくことで、より 現状にあった最善の介護ができるものと考え実行 している。言葉での説明で現状を示す事は難しい ときもあり、時にはビデオや写真を利用して、ご 本人の実態をご家族に十分に認識していただい ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヵ月ごとに行なわれる介護計画の見直しには、結果を数値化することで、目標やサービス内容の変更に役立て、職員全体が個々のご利用者と同じ認識が持てるようにしている。	○	サービス目標を数値化して、それを3ヵ月ごとに見直していくことで、ご利用者の日常生活の向上とその可能性を見つけることができたり、また新たな方向性を探るきっかけを作る事ができ、介護計画に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当施設の自然に恵まれた環境の中で様々な活動をする事ができ、そのことがご利用者個人個人の培われてきた生活状態を、再現する事ができている。	○	花壇作り、畑仕事、草むしり、散策、山菜取り、もちつき、バーベキュー等 当施設での立地条件ならではの活動をする事ができ、またその様々な活動を迅速に行動に移す事ができる職員の能力・技量も備わり、多岐にわたった支援活動を行なっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園、中学校、高校、町内会、郵便局等毎年定期的に地域とのつながりを持った活動を行っており、教育関係者、駐在所、郵便局長等様々な観点からの専門分野の人たちと意見交換をしながら運営に努めている。	○	画一的な交流ではなく、様々な世代との交わりを持つ事で幅広い生活空間を得る事ができ、施設生活からの開放と自立に向けた社会進出を目指すことで、地域社会にとけ込んだ介護を行なっている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員とは介護認定の更新時に本人とともに話し合う機会を設けていて、必要とあればご家族にも参加していただき、様々なサービスや連携施設の紹介等社会資源のバリエーションを提示している。	○	認知症の進行の度合いやその程度に応じ、日頃より他のサービス事業所との連携を深め、本人の意向に速やかに応じる事が重要であり、それぞれの施設の特徴を生かした介護を行なえるよう図っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に介護支援専門員と話し合いを持っていて、権利擁護、高齢者虐待、予防介護についての情報交換を行なっている。	○	支援センターとのつながりは、幅広い見地からの情報を受ける事ができるため、定期的に時間を作り、情報量の多い施設運営に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当施設は5週ごとに病院との契約により定期往診をしていただき、ご利用者全員が受診を行うとともに医療相談を受けている。</p>	<p>○</p> <p>医師からはインフルエンザ、内科受診、感染症対策、褥瘡の防止、緊急搬送、認知症等医療全般に渡って支援を受ける事ができている。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>定期往診を受けている病院では週に一回、認知症専門医による医療相談及び受診を受ける事ができ、緊急性や尋常でないと思われるときは必要に応じて受診を受ける事ができる。</p>	<p>○</p> <p>主治医を通して、認知症に関する情報や相談を行なっていて、ご利用者の変化に応じてその都度話をする事ができ場合に応じて、受診も行うことができる。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>定期往診していく中で、施設と看護師との連携は十分になされていて、内科相談、バイタル相談や外科医による褥瘡の手当て指導、リハビリ指導、感染症予防等日常的に様々な分野で支援をいただいております、ご利用者と看護師とのつながりも非常に良い状態となっている。</p>	<p>○</p> <p>連携病院とのつながりは非常に友好的に行なわれていて、病院から施設へのご利用者の紹介や施設から緊急時の対応等相互に日常的に交流を行なっている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>日常的に病院との連携姿勢を強めているのは、認知症の高齢者にとって何が重要化をお互いが良く理解をして、早い段階における施設での介護とそれに伴う、病院側のサポートの確立であって、当施設としてはすでにお互いの支援の話し合いができています。</p>	<p>○</p> <p>現実的に病院側の医師、看護師、婦長、リハビリと施設の職員と連携はなされていて、定期往診医師をも交えた連携がなされている。またご利用者のご家族もそのほとんどがその病院を利用して、病院、施設、ご家族それぞれにおいての連携は十分にとられている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>定期往診により、認知症の進行状態を医師と職員と話し合い、著しく進行している場合、また重度化の体を要していく場合はあらかじめ、ご家族とともにその状態を話し合い、将来に向けたあり方、希望、意向を積極的に話す事で、早めに準備と対応を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>終末期のあり方は、ご利用者及びご家族の希望、親族等様々な角度から意向を十分話し合い、医師・看護師との協力の下で進めていく方針で、全ての協力体制が整うことで進めていくものと考えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>施設の職員の能力・技量によるところが大きく、日頃より個々の場合における可能性を総合的に話し合い、その中でどう実行していくかを検討している。</p>	<p>○</p> <p>看取りにおける仮想プログラムを作り、医師との連携、家族との連携、職員の配置、他のご利用者に対する配慮等、それらを検証していく事で、問題点となる部分を搾り出してマニュアルを作成し始めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設からの退所に関しては、ご本人はもとより残される他の利用者に対する配慮も同じように重要と考えている。 そのためには退所当日のあり方、荷物の搬送の仕方、退所当日までのご本人と他の利用者との関係等、退所されるご家族にも十分に話し合い、他の利用者に対する理解と協力を求めている。再入所の場合を想定して退所を考えている。	○	退所先にはこれまでの介護状態、認知症の状態を介護計画に沿って情報を伝えていて、施設入所時からどのように変化があったのか情報を伝えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記憶、情報は外部に持ち出す事はなく、厳重な取り扱いをしていて、プライバシーや個人の尊厳を損なう事のない配慮した活動記録と公表を行なっている。	○	ご利用者の面会においても、ご家族、友人、兄弟、親戚等他の利用者に気兼ねする事無く行なえるよう、スペースを設けていて、ご利用者1人ひとりのプライバシーの保護を行なっている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	レクリエーションやリハビリの内容等様々な種類を用意していて、その中にご利用者の意向と能力に応じた活動を選択していただいている。そこにはご利用者にとって無理の無い状態を作り出す事で、持続性をもたらしている。	○	常日頃よりご利用者の希望を十分に聞きだすことで、その能力を読み取る事ができ、自ら決定権を持つ事で日常の暮らしに主体性と積極性を養っている。又その事が施設内での生活を充実させていてご利用者の心の安定に結びついている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画や週間プログラムの中だけで日常生活を行なうのではなく、その日その日のご利用者の体調、精神状態、健康状態、天候のより臨機応変に対処する事で、ご利用者個人のペースを守って行なっている。	○	ご利用者一人ひとりにその能力に応じた簡単な目標を持っていただき、それが短期、長期に関わらず、その目標に向かって努力し少しずつ達成されていく喜びを感じていただき、日々の暮らしに活力と豊かさを求めている。
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った服装を行い、様々な施設との交流会を行う事で、おしゃれを楽しむ機会を与え、身だしなみやファッション感覚の維持に努めている。	○	当施設は社会的交流が多く、必然的に身だしなみや服装、作法、礼儀を重んじる場面があり、日常の部分と非日常の部分を作り出す事で、個人の生活の中を広げている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>たこやき、おはぎ、ぼたもち、バーベキュー等ご利用者自身が参加できる食生活を作り、その過程でお互いが思い出を語り合い、助け合いながら共同活動を楽しむ事ができている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>年末、正月、施設での催事、町内での祭事等でご利用者の嗜好に合わせてお酒、ジュース、おやつ等を楽しむ事ができる。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>個人ごとに健康管理表を作成していて、毎日のバイタル、排泄状態、食事の摂取状態、入浴管理等日常生活習慣を職員全体が把握する事ができるようにしている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>広い浴槽と洗い場を確保していて、ゆったりとした雰囲気を楽しむ事ができ、ご利用者同士また介助職員との会話を進めていくに十分な雰囲気を作っている。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>食後の一時間半は、休憩時間として各自静に過ごす時間を設けていて、午前と午後の時間的経過と生活のメリハリを付けることで、毎日の生活に個人の意向に合わせた支援を進めている。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>できる限り共同で作業していく状態を作り出していくことで、日常生活の張りごとご利用者同士の協調性を養っている。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身の回りの消耗品、おやつ、花壇の花、料理材料等職員とともに選び、支払いを行なうことで、社会的自立を目指している。	○	毎月定期的に交代で買出しに出て行き、ショッピングを楽しむ事で社会的支援をしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は日課となっていて、運動する事で気分転換を図ったり、季節感を養ったり、時間的経過を体で体感させる事ができる。外でおやつを作る事で、ご利用者が外で過ごしやすくなり、施設内とは違った会話が進める事ができ、感性を豊かに保つ事ができている。	○	当施設は豊かな自然環境の中にあり、季節折々の情感を肌で感じる事ができ、ご利用者の豊かな心、昔生活していた情景を満たして、町内の散策、郵便局の訪問、寺参り、寺の池の鯉のえさやり等気軽に外出できるアイテムをそろえている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	当施設は介護車が二台有り、最大一度に15名を載せて移動する事ができ、その高い機動性ととともに、職員の臨機応変できるシフトづくりと応援により、リンゴ狩り、藤見学、牧場、紅葉狩り等皆そろって楽しく小旅行をして自然の環境のよさをフルに活用している。	○	行く先によっては家族との交流会を開く事ができ、また手作りお弁当を外で食べるのは大変楽しく、写真に残していく事で、記憶の回想を促す事ができ、次回の楽しみの目的を持たす事ができている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	作品展の開催案内や礼状、年賀状、保育園の園児に対する言葉等様々な機会を通して行なっている。また電話は子機を利用して、個室で行う事ができプライバシーに配慮する事ができる。	○	時には代筆する場合も有り、ご利用者の意向に沿った形をとりながらプライバシーに配慮して行なわれている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用者やご訪問者のプライバシーを守っていく事で、気軽に面会をしていただいている。また施設内だけでなく、作品展会場や外出の合間にも面会をする事が可能で、ご利用者の意向を重視した面会の方法を支援している。	○	ご利用者の個人アルバムを見せたりして、訪問者に施設での暮らしぶりがわかりやすいよう、また会話が弾むように工夫している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成するとともに見やすい位置に掲示して、介護の実践において行う事のない様指導を徹底している。	○	定期的にスタッフにおける会議を開いて理解を深めるとともに、市やGH協議会が行なわれる身体拘束、高齢者虐待防止の研修にも参加をして取り組みを強化している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>散歩の日課、草むしり、畑作り、花壇作り、外でのおやつ等屋外での活動を積極的に行なっていて、ご利用者の意向により自由に入出りをしている。</p>	<p>○</p> <p>当施設は豊かな自然中にあり、その自然を季節の折々に体感し取り込んでいくことで、ご利用者が落ち着いた日常生活を過ごされている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>規則正しい日常生活の中において、ご利用者の日常の状態の把握は十分にできていて、その安全はいつでも配慮されている。</p>	<p>○</p> <p>夜間において特に問題となることはなく、非常に落ち着いた状態で休まれている。特別な物音や照明が長く点いているかどうかを十分気をつけて夜間の生活に配慮している。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>はさみ、針等自由に使う事ができていて、包丁等食事に関しては、職員と一対一で行なうとともにご利用者の能力に応じた道具の使い方を支援している。</p>	<p>○</p> <p>日常的に裁縫等の作品作りを行なっていて、その都度様々な道具を使う事ができている。毎日の道具は回収していて、保管・管理は職員が行なっている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者個人個人の事故発生の危険性を予測する事で、その事故防止が介護計画の中で目標となったり、サービス内容として取り入れ、職員全体で未然に防いでいる。</p>	<p>○</p> <p>事故防止マニュアルを作成して、見やすい場所に掲示している。また日頃より転倒等の危険物の排除に努めていて、誤薬を起こさないよう、二人で確認するとともに、配布するつど薬名、効能を個人別に明記して服用させている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>全体における緊急の場合の打ち合わせは、常日頃より行なわれており、ご利用者の状態により急変が予想される場合、その個人別にマニュアルを作成している。また事故発生時の連絡網等のマニュアルを作成していて、いつでも見やすい位置に掲示している。</p>	<p>○</p> <p>全ての職員が応急手当が行なえるよう、研修の機会があるたびに順次参加させている。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災訓練は定期的に行なわれていて、地元の駐在所、郵便局、地域消防団等地域との連絡は途絶える事なく行なわれている。</p>	<p>○</p> <p>建物が二棟構造である為避難しやすい状態となっていて、火災等災害の一時的緊急避難が行ないやすくなっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>日頃のご利用者の状態はご家族の訪問により、よく理解されていて個人アルバム等参考にしながら状態の推移を見守る事ができ、ご家族が安心して施設をご利用いただけるよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>他の施設との連携体制も行なわれていて、ご家族に急激な介護負担がかからないよう様々なサービス体制を行なっている。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の急変や、症状に著しい進行が見られる場合は、ご家族に面会をしていただき、ビデオ、写真を参考に症状の状態を報告している。</p>	<p>○</p> <p>長期に渡る緩やかな変化や認知症の進行状態をご家族に理解させていくとともに、介護状態の変化について定期的にご家族と話し合っている。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>毎日、毎回配布する薬の薬名、効能を、個人別に明記してあり、誤薬のないよう努めている。また定期的に医師と服用の状態について意見交換を行い、効果の状態、副作用の有無等確認しあっている。</p>	<p>○</p> <p>ご利用者本人にその薬の内容を話し合った状態で服用させていて、症状の改善に向かう意欲と服薬をなくする喜びを養っている。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>散歩や草むしり等 外で体を動かす事で、内蔵の動きを活発化させ、自然な便通ができるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>ご利用者全員の排便の有無を毎日記録していて、規則正しい排泄がなされているかどうか職員全体が把握している。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、うがい、入れ歯の洗浄を促していて、定期的に入れ歯を職員が確認するとともに、ご利用者の能力によっては職員が預り洗浄している。</p>	<p>○</p> <p>口臭衛生や体臭等はそう簡単には取り除く事はできないため、様々な交流会の多い当施設では、日頃より注意を怠りなくして、絶えず清潔感が感じられる状態を支援している。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に体重を測定し記録したり、栄養士に食事の栄養バランスの調査の依頼やご家族にも食事に参加していただいて、日頃の食生活を様々な角度から支援している。</p>	<p>○</p> <p>水分は食事ときだけでなく、午前・午後とおやつ時間を2回設け、また入浴後や外での仕事の後などその都度ゆっくりと水分補給できるよう支援している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年ご利用者にはインフルエンザとレントゲン胸部検査を毎年行なっている。職員もインフルエンザおよび健康診断を行なっている。	○	感染症予防マニュアルを作成してその取り組みをしている。また日頃よりご利用者、職員の手洗いの奨励、週二回廊下・トイレの消毒（ノロウイルス対策）をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は一日おきのように買出しをして、その都度新鮮な材料を吟味・調達をして調理している。また調理物はその場で処分するとともに、毎食後調理道具の洗浄、台所の大掃除を定期的に行い清潔の確保に努めている。	○	一週間分の食事のメニューを事前に決めていく事で、無駄のない、バラエティにとんだ食材が確保する事ができ、おのずと新鮮で安全な食材の確保につながっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を配置したり、玄関前でおやつ時間が取れるようテーブルや椅子を用意していて、憩いができるよう工夫されている。	○	様々な交流会が多い当施設では、玄関・玄関周りには施設の顔と考え、ご利用者やご家族、地域の人たちが集えるよう十分に配慮されている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内にはご利用者と一緒になって季節折々のモチーフで壁飾りを施し、ともに施設を飾る事で共同性と協調性を養う事ができ、また明るく楽しい施設空間ができています。	○	豊かな自然の中の施設では、その景色・風景を取り入れていくことで、日常の生活リズムを規則正しく行なうことができ、閉塞的な空間ではなく、開放的な心の状態で安定した生活ができています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室内では、ソファや畳の間や個人個人の椅子が用意されていて、各自その日の気分の状態での場所をお好みの場所を選択することができる。どの場所においても窮屈な状態ではなく、選択した場所で各自好きな事（裁縫、塗り絵、ちぎり絵、読書、会話等）をすることができる	○	ご利用者の居室と娯楽室とは適当な距離があり、その空間を移動する事で、各自の生活するスタイルを選択することができ、静に過ごしたり、語ったり様々に行う事ができています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者のこれまで遣っていた生活道具を使用するとともに、好みに合った居室空間や能力にあった家庭道具をご利用者やご家族とも相談の上配置している。	○	作品や園児との交流会でいただいたものや、家族との写真を飾ったりして、室内が単調にならないよう工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくような換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内、廊下、トイレ、風呂場等の温度差がないよう十分に配慮している。また天気の良い日は各部屋の窓を開け換気に努め、自然の空気に極力触れていくようにして、季節折々の自然環境を上手に取り込むことで、穏やかな日常生活を営む事ができている。	○	自然の風を感じる事で季節感をかもし出す事ができ、余分な衣服の重ね着がなくなり、寒さに対する抵抗力と生活の主体性を養う事ができる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子用にバリアフリーになっていたり、また健全者用に階段を使うことが出来たり、車椅子対応のトイレの改修や洗濯物の管理がしやすいよう場所の設置など、ここの能力に応じた日常生活ができるよう配慮している。	○	風呂場、洗濯場、娯楽室、トイレと毎年順次改装を行なっていて、様々に現れる身体的機能を活かすことができるよう改善されている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介護の仕方や方法を、ご利用者一人ひとりと話し合っで行う事で何が理解されているのか、能力はどこまであるのかが推察され、ご利用者の納得した生活様式にする事ができる。その事が混乱と失敗を未然に防ぐ事ができている。	○	ご利用者が日常生活において毎日何をすればよいのか理解する事が自立していく事で、楽しさの中にも使命感と義務感を養っていく事が大切と考えて、励ましと感謝の言葉を日常的に行なっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花を摘んで部屋に飾ったり、雑草取りや花壇作りを行ったり、春は花見、夏は花火、秋は紅葉狩り等自然を楽しんでいる。	○	玄関前ではバーベキュー会や敬老会、園児、学生との交流会に幅広く利用していて、ご利用者が親しみを持つ事ができる施設作りを行なっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日楽しく、努力を持って、お互い励まし合い助け合って生活している姿を作品展の中で表す事が、1年間の目標とし、その1年の過程を家族を始め、地域の人々に見ていただき、また同じ高齢者の励みにもなったり、時には励まされたりして多くの作品が完成していく喜びと、社会の人たちに見てもらっている感動を大切に日々実践している。作品展の回を重ねるごとにご利用者の実力が向上していくのがはっきりと分かり、多くの人たちに次回の期待と残存能力の高さを見る事ができます。また保育園との交流会、中学・高校生の職場体験、高校生の演奏会、地元住民の影絵、踊りの鑑賞等、施設の地域社会への貢献とご利用者の積極的な社会進出を実践しています。このような様々な活動を各新聞社に繰り返し掲載して諸活動を広くアピールすると共に、地域社会におけるグループホームの活動の理解と情報提供を行なっています。